

かすみがうらマラソン 2023 ボランティア活動報告書

報告者:坂本一志(茨鍼会広報普及部長)

R5.4.16 茨城県土浦市において、かすみがうらマラソン 2023 ボランティア活動を行った。活動内容は以下の通りである。

大会名称(通算 33 回開催)

かすみがうらマラソン兼国際ブラインドマラソン2023



主催

かすみがうらマラソン大会実行委員会 土浦市 かすみがうら市
日本ブラインドマラソン協会 日本パラスポーツ協会日本パラリンピック委員会 茨城陸上競技協会 土浦市社会福祉協議会 かすみ
がうら市社会福祉協議会 毎日新聞社 スポーツニッポン新聞社

主管

茨城陸上競技協会

(公社)茨城県鍼灸マッサージ師会(以後、茨鍼師会)と本会は 4 年前の茨城国体において、「スポーツ鍼灸マッサージいばらき(通称:スポいば)」で協働した経緯があり、今まで茨鍼師会は視覚障害者を中心としたマッサージ施術を主な内容として活動していたため、鍼灸の活動経験がなく、つくばマラソン、守谷マラソン等で多数参加経験のある本会に鍼灸施術の参加協力の要請があった為、それに応じる形で活動に参加する事になった。

開催日時と競技形態

令和5年4月16日(日) 雨天決行

● 10マイルの部

第1ウエーブ 午前9時20分スタート 第2ウエーブ 午前9時25分スタート

● フルマラソンの部

第1ウエーブ 午前9時45分スタート 第2ウエーブ 午前9時50分スタート

第3ウエーブ 午前9時55分スタート 第4ウエーブ 午前10時00分スタート

● 5キロの部

午前10時30分スタート

大会会場

茨城県土浦市川口運動公園 J:COM フィールド土浦



コース概要



活動内容

例年は茨鍼師会が土浦市内にある支部の視覚障害者部門を中心にマッサージ施術を行っていたが、本年は鍼灸施術も展開したいとの事で、茨城国体で協働した本会と協働で行う事となった。

3年前に本会は茨鍼師会とは別ブースで鍼灸施術を行った経緯があり、その時は130名の利用があった。今回はテント4張を用い、2.5張をマッサージ、1.5張を鍼灸で分割し、鍼灸はベッド4台、術者9名、鍼灸学生1名(受付)の10名体制で臨んだ。

午前9時20分10マイルがスタートして、最初のゴールが10時前後から利用者が来場始め、7:3でマッサージ希望者が多い中、鍼を希望して来場される方が合計で79名という結果になった。鍼灸未経験者が半数以上であったが、普段から鍼灸で体調管理をしているというランナーもおり、各県でスポーツ鍼灸に取り組むケースも増えてきているため、確実にスポーツ愛好家中では、スポーツパフォーマンス向上の手段として、鍼灸を利用する指向も増えているという実感を持った。利用者の中には、「こんな刺激なのに痛い肩が拳がるようになった」、「歩くのも痛かった膝の痛みが、痛みはあるが歩けるようになった」という感想もあり、ブース内は術者とランナーとの間で、終始和やかで楽しい声が飛び交い、盛り上がりを見せていた。術式に関しては、術式 セイリンパイオネックス 0.6、0.9 貼付及び適宜、豪鍼単刺術を使用した。午後3時頃、夕立ちに見舞われ、サービスの終了を余儀なくされ、撤収となった。



受付(大山道子保険部長、東京有明医療大学の大山結子さん) ブース内施術風景1(榊副会長、チームリーダー、手前)



施術風景2(張替健志学術部長、左)



施術風景 3(山下香奈子先生)



茨鍼会参加メンバー(左写真)

ボランティアメンバー全員
(下写真)

